

ご近所の お医者さん

631

いそのかみ
皮フ科院長

磯ノ上正明さん

—大東市

コロナと関係する症状

コロナ禍の中で皮膚科の受診は減少傾向ですが、以前に比べてコロナと関係する疾患を診る機会が増えてきました。ここではコロナ感染後に見られる症状やマスク、手洗いなどコロナ対策に関係する症状についてご紹介します。気にな

る症状があれば、お近くの皮膚科を受診してください。

患者さんが気にされることが多いのは、感染後に生じる休止期脱毛です。おおむね半年もあれば改善しますが、免疫変動で生じるとされる円形脱毛症



気になれば早めに相談

配し過ぎないようにと説明します。

コロナ対策に関係する皮膚疾患では、マスクが首や頬骨部とたびたび擦れることで起きる刺激性皮膚炎があります。またマスク内部は湿度が高くなっていますので、それによるニキビの悪化や吹き出物の訴えが多く見られます。ワクチンの接種が進み、厚生労働省のPRのように、屋外でのマスクは不要とされる風潮が広がることを期待しています。

の再発で来られることもあり。急にじんましんが出てきたと駆け込まれる方も多いですが、話をよく聞くと「2週間前に療養期間が解除になりました」と打ち明けてくれます。これも1年以内に軽快をしますので、あまり心

次は手荒れの原因と対策です。手湿疹の大半は、洗浄による皮脂の流失に加え、高濃度エタノールによる刺激が重なり発症します。とくに消毒を何度もする飲食や介護の関係者が多いのですが、これらの職種ではステロイドによる治療、手洗い後の保湿クリームの塗布以外に、刺激から皮膚を保護し、さらに塗り薬の流出を防ぐ役割がある

保護クリームの使用が有効です。これら以

外の職種では手荒れがある方は、感染対策は洗浄にとどめ、消毒回数を最小限にすること、外出時の手洗い後、すぐに保湿クリームを塗ることで悪化を予防できます。ただしこの場合はせっけんやハンドソープを使用した丁寧なもみ洗いと15秒のすすぎが必要です。コロナとインフルエンザの同時流行による医療逼迫を避けるためにも、できるだけ、それぞれのワクチン接種を願います。